



校長室だより

令和5年度

5月23日

NO. 8

みんなで作り上げる 学区大運動会

前日より降り続く雨は、深夜0時を超えても止まず、運動場を濡らし続けました。思いもよらぬ長い雨で、「運動会開催」は宣言していましたが、ちゃんと間に合うのだろうか不安が募ります。先生たちには、会場準備に朝7時頃に来てもらうようお願いがしてありましたが、1時間前の6時には、ほとんどの先生が駆け付け、グラウンド整備を始めていました。そこには、体育振興委員の天野さんの姿も。山から立ち上る霧が山々を包み、太陽が出るのを阻みます。晴れていればすぐに乾くグラウンドで、何人もの先生がスポンジで水を吸い上げ、少し乾いたグラウンドには、土砂を投入していきます。立ったりしゃがんだり、重い土をまいたりならしたり、



皆文句ひとつ言わず、むしろ楽しそうにグラウンド整備を続けます。7時30分には社教委員さんにも来ていただき、テントを出したり看板を取り付けたり、急ピッチで準備が進められました。

思えば、この運動会のために、学校だけでなく、社教委員会や体育振興会、それぞれの立場でずっと前から準備が進められてきました。学校では教頭先生が、運動会のために、あちこち打ち合わせたり計画を立てたり、日々遅くまで準備してきました。コロナ規制の緩和後、150周年の記念の運動会ということで、学校だけでなく学区の皆さんが、成功させたいという気持ちをもって臨まれることに、学区の一体感が感じられ、何より価値のある運動会であると、感じられました。

本番では、子供たちもその思いに応えるように、さらに自分たちでもその思いを表わそうと、今までで一番の躍動を見せてくれました。運動会に限らず、何事もそうですが、本番はたった一度限りです。目に見えるのは、その結果だけですが、そこには、目に見えない子供たちの思いや頑張り、今まで積み重ねてきた練習の数々、仲間や学校に向けた熱い思いなど、多くのものがあります。今年の全校ダンス「We are ミックス HADANUTS」でも、「果たして全校でダンスができるのか」「多くの人に見てもらうためにどうすればいいのか」など、いろいろな不安と、それでも最高のものを作りたいという子供たちの強い気持ちがあったからこそ、本番、誰もが楽しく元気になれる、そんなダンスが見られたのだと思います。また、市教育委員会の先生は、係の子たちの動きも「素晴らしいですね」と大変ほめていかれました。一人でいくつもの役目を、きびきびと、そしてきちっと行うことは、直接、演技として目に見えるものではありませんが、運動会にとってはとても大切な役割です。そうした、いろいろな場面でがんばる秦梨っ子がいることが大切であり、今回の運動会で価値のあるものであったと考えます。

こうした目に見えない頑張りや個々のドラマが多ければ多いほど、子供が主役となって活動できた、子供の心に残る運動会であったと言えると思います。そして最後になりますが、そんな子供たちをご家庭で、学区で支えていただいたご家族の方や、学区の方に感謝いたします。ありがとうございました。

